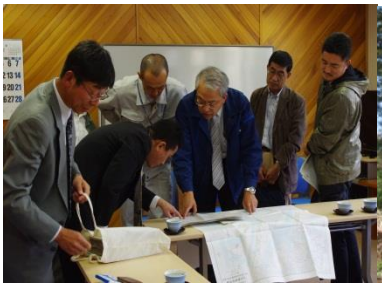
公益財団法人
オイスカ

東日本大震災復興支援

「海岸林再生プロジェクト 10 ヵ年計画」

2011 年度・2012 年度上半期レポート

～東北にもう一度、白砂青松を取り戻したい～



http://www.oisca.org/kaiganrin/

2011･2012 年度 実施概要 （2011 年 3 月 17 日～2012 年 12 月 31 日）

●震災直後 2011 年 3 月 14 日から、長期復興支援を視野に行動開始。

●林野庁、宮城県、名取市、林業事業体に対し、民間活力導入による海岸林再生を提案。

●2011 年 9 月 22 日、「海岸林再生プロジェクト 10 ヵ年計画」を正式発表。

●林業種苗法に沿い、被災地農家 3 名が代表して宮城県農林種苗農業協同組合に加盟承認され、宮城県種苗生産事業者登録を行った。

●この地で戦後 2 回目となる国と民間との協働による海岸林大造林に向け、2012 年 2 月 29 日に被災地農業従事者による組織「名取市海岸林再生の会」（被災地農業従事者男女 30 名）を発会。

●名取市海岸林約 100ha、50 万本の苗木を育てる 2 ヵ所の育苗場約 0.6ha と併設して、オイスカと「再生の会」の事務所（下増田字広浦東 493-2）を設置。

●新設された「再生の会」に対して、オイスカより 2012 年 3 月 1 日より「種苗生産等業務委託契約を結び、雇用を通じた生計支援として育苗実務を実施。

●年間労務集計（「再生の会」30 名）

2011 年度（3 月 1 日～3 月 31 日）　224 時間

2012 年度（4 月 1 日～12 月 31 日現在）　960 時間

＊復興計画の進捗に合わせ年々増加させ、将来は植林や育林労務も加わる計画。

＊上記時間以外に、全国各地や都内での講演も労務として実施している。

●マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ 0.5kg、普通クロマツ 1.5kg、合計 2kg 約 100,000 粒を初めて播種。2 年間の育苗の後、うち 70,000 本の植栽を目標。

●2012 年 11 月末現在、苗木生育状況 93％（93,000 本）と極めて順調。　＊宮城県生育量調査

●シンポジウム主催　3 回　569 人聴講

●活動報告会･講演　34 回　1,810 人聴講　（国内 9 県）

●現地視察会　3 回　409 人参加

●視察団受け入れ　20 回　309 人視察

●写真パネル展　14 回

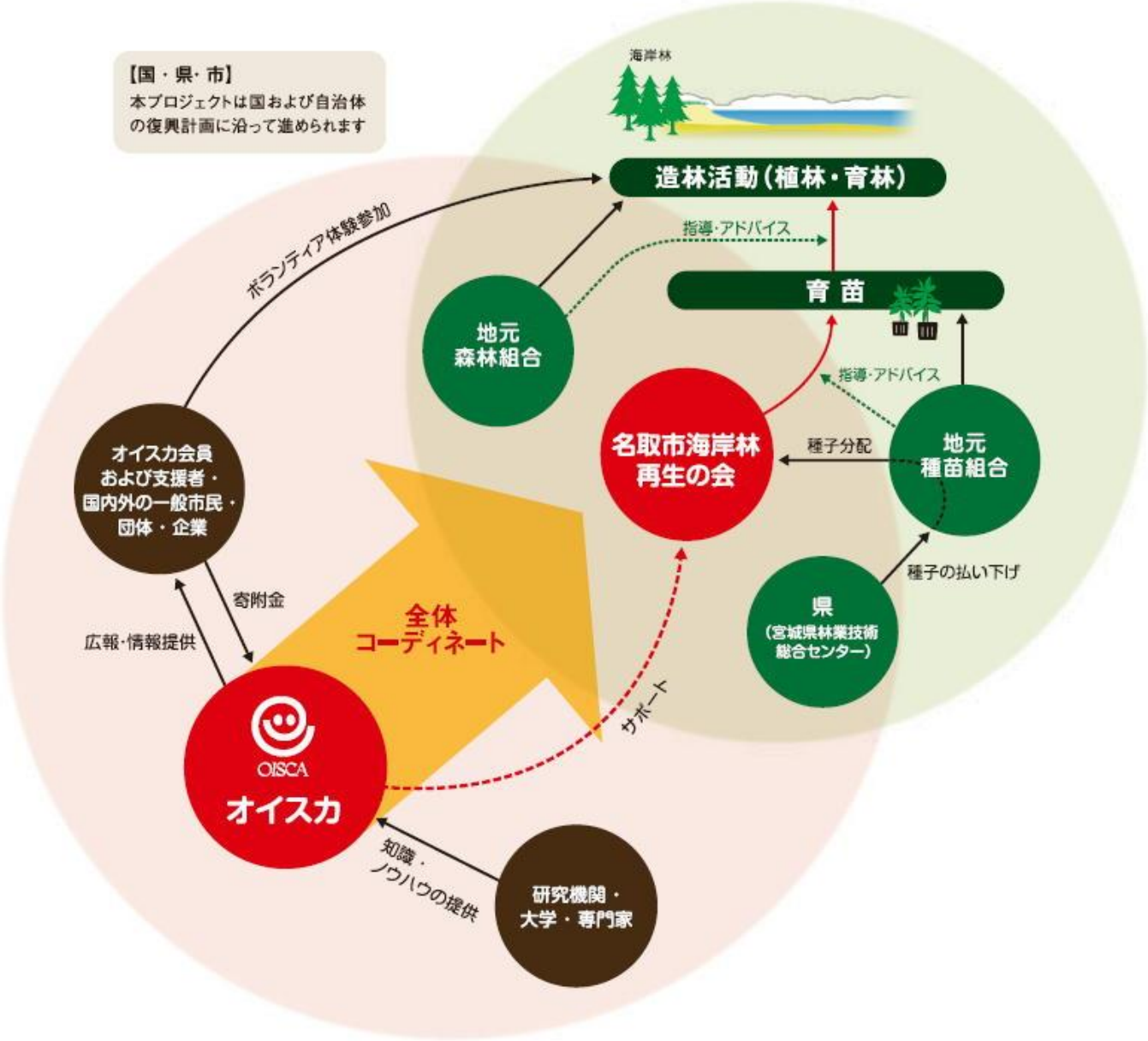
●国内メディア掲載　34 回　（テレビ･ラジオ･インターネットは除く）

●海外メディア取材団　31 か国　44 人取材

＊EU･メキシコ･コスタリカ･パナマ･ジャマイカ･トリニダ-ド･トバゴ･ベネズエラ･コロンビア･ブラジル･チリ･アルゼンチン･中国･韓国･台湾･シンガポール･ベトナム･バングラデシュ･フランス･スペイン･イギリス･イタリア･カナダ･UAE･クウエート･サウジアラビア･トルコ･ヨルダン･レバノン･エチオピア･ガボン･ナイジェリア

●海外メディア掲載　19 ヵ国で確認（EU を除く）

＊EU 全域への配信(EPA 通信)と、アメリカ、インド、アルゼンチン、メキシコ、中国･台湾･韓国･ベトナム･ベネズエラ･スペイン･エクアドル･ニカラグア･マレーシア･イタリア･トリニダ-ド･トバゴ･ブラジル･UAE･ナイジェリアで掲載を確認。



これまでの活動

1. 起　案　2011 年 3 月 14 日

私どもは 50 年以上にわたるアジア・太平洋諸国における農業の技術指導・持続可能な地域開発協力、30 年以上の緑化活動を実践し、16,000ha もの緑化に成功してまいりました。特に海外の海岸林である「マングローブ」植林プロジェクトは 20 年の経験と約 8,000ha の実績を有しております。

これらの現場では、いずれも主役はその地域の人たちです。地元の強いニーズ、住民の主体性を前提に、オイスカがコーディネートすることにより、地元行政、企業団体を含むオイスカ会員などの「協働」が実現して積み重ねた実績です。私どもは、農業や緑化など、地域に密着する長期間の協力活動を主としてきたため、緊急援助のニーズが去った後の数多くの経験を持っています。それらが発案の根源です。

東日本大震災を受けて、オイスカ本部として可能な限りの緊急支援を開始すると同時に、前年に業務連携した林野庁東北森林管理局とコンタクトを開始しました。

2. 長期復興支援立案・調査事業　2011 年 3 月 17 日～

3 月 17 日に皆川芳嗣林野庁長官（当時）に「海岸林再生を通じた長期復興支援の一端を担いたい」との協力申し入れを行い、民間活力導入を働きかけました。住民ニーズを後押しし、国や自治体の復興計画に沿う形で、国内外の市民や企業・団体との協働による長期復興支援を実現するため、NGO の本分の一つである「社会の潤滑油」的役割を負います。非常に地道で、ボリュームの多い役割ですが、多くのセクターが持ち味を発揮して協働する上で、要となる業務をオイスカが担います。

4 月 11 日に名取市北釜地区出身の方を通じて地元とのご縁が出来て以来、4 月 21 日に民間救援物資輸送ヘリに同乗しての航空調査を実施。そして、5 月 24 日から陸上踏査および、住民代表・国・県・市・森林組合・種苗組合・専門家などとの協議を行いました。被災地の方たちと初めて協議を行ったとき、大変貴重な情報を知ることが出来ました。少年時代に 10 年にわたる海岸林造林に加わった記憶がある方が幾人もいること。「落ち葉掻きや、松毬ひろいによる燃料確保、キノコ採りなど松林が日常生活と密着していた」という海岸林への愛情を感じたこと。塩分を多く含んだ風や、砂地の貧栄養土壌という沿岸域特有の「ストレス」でも、クロマツだからこそ生き抜いて、防風・防砂・防潮・防霧などの機能を発揮することを農家の人はよく知っていたことなどを知ることが出来ました。だからこそ、震災直後にも関わらず、「必ず再生させる」という強い想いがありました。

苗木を植えるまでに、2 年間の長い期間を必要とします。また、強いストレス下であるため、森らしく見えるには長い歳月が必要です。復興計画全体が先行き不透明でも、海岸林再生の第一歩目となる「クロマツ播種」は、翌年 2012 年の春、年に一度の播種のタイミングを逃さないよう、1 年かけてその準備を行おうと考えました。

航空調査（4 月）・陸上踏査（5 月～）

国・県・市・林業事業体・被災地住民との協議

3. 種苗生産事業者としての資格および技術の習得　2011 年 5 月 24 日～

史上最大とも言える森林被害に際し、海岸林復旧に不可欠な苗木と、その生産のための確かな技術を持つ担い手が必要とされているという事実をもとに、5 月 24 日に海岸林復旧事業関係者との会議に臨みました。既存の苗木生産者からは、新規参入の競争相手と思われるかもしれない私たちに対し、「ともに努力しよう」との信頼の言葉を頂くことが出来ました。以来、「林業種苗法」に沿う「生産事業者登録講習会」開催を働きかけました。従来からの生産者の育苗現場や林業技術センターに被災地農家の方と足を運び続け、11 月には

講習会を11名が受講し、3名が種苗組合に代表して加入。県への生産者登録事務を経て、年に一度の播種の時期目前の2012年3月9日に、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツと普通クロマツの種子2kg(約100,000粒)を、種苗組合員として県から払い下げを受けました。

被災地の農家の皆さんは、育苗農家や県施設の視察を繰り返したうえで、生産者登録講習会受講に臨みました

4. 育苗用地および実務環境の整備　2012年2月1日～

育苗場の候補地探しは2011年7月25日から開始しました。現在、2ヵ所、合わせて約0.6haの育苗場を個人の土地所有者から借地しております。第1育苗場は海岸線から1.4kmの名取市下増田字北原東493-2番地、第2育苗場は海岸より内陸に9km同市高舘吉田に確保しました。

第1育苗場は巨大津波がまさに押し寄せた場所で、仙台空港を目前にするものの今も荒野の中にあり、土壌・水質調査を経て、2011年2月1日から土壌改良に取り組み、見事に短期間で耕作地に戻りました。私どもの名取事務所もここにあり、発電機生活を続けながら現場事務所を設置し、井戸掘り、水道・電気・電話工事、春には風速30m前後の強風にさらされるため育苗場には防風ネットを作設しました。以上に際しては、前田建設工業㈱、宮城中央森林組合をはじめとする皆様の、並々ならぬご支援をいただいたことを特記します。

第2育苗場は、小松菜・青梗菜等の生業復活のために、4月に避難所生活の中から「北釜耕人会」として立ち上がった3家族が放棄寸前の畑を借地しており、その一角を利用して育苗に取り組んでいます。

種苗組合や森林組合、行政・支援企業などから様々なアドバイス・協力をいただき、育苗の環境を整えました

土壌・水質調査、土壌改良、事務所設置、防風ネット作設、電気引込、井戸掘削、通信接続等、一からの立ち上げ

5.「名取市海岸林再生の会」発足　2012 年 2 月 29 日～

20 年、30 年先の保全活動の中核となることをイメージしました。宮城南部の海岸林は戦中に荒廃し、1948 年（昭和 23 年）から 10 年間の再造林が行われた際、「愛林組合」が編成された歴史も参考にしました。名取市広浦南端にある「愛林」碑には、再生の会メンバーの祖父や父の名が刻まれており、自分自身も少年時代に海岸林造成労務を手伝った記憶のある人もいます。人生 2 度目の大造林に加わることになるのです。

発会式では第一育苗場班長でもある大友副会長より、「我々は今赤ん坊として生まれました。ですが 1 週間後には小学校 3 年生になって見せます」との強い意気込みを込めた挨拶がありました。実務集団を組織化し、皆様からの寄附金がオイスカを通じることで寄附者にとっても税控除扱いとなり、オイスカが全体コーディネート実務を負うことで地元の事務を軽減し、オイスカと育苗実務にあたる方が対等な立場となるシステムです。会長は渉外全般を負い、副会長は第 1･2 育苗場の班長でもあり、代表 3 名が種苗組合の組合員になり、各種講習会や会議にも参加しています。将来の植林や育林実務で労働力が不足した際は、安全衛生や保険の面で加護される「森林組合請負班」にスライドすることも念頭に置いています。

震災前は隣の地区に住み、同じ小学校･中学校ご出身の皆さんです。少し離れて暮らしていても、ここで会うことが出来ます

左右：「愛林」碑（名取市･岩沼市）それぞれの海岸林造成の歴史が刻まれています　中央：「国土緑化」碑（名取市）1953 年（昭和 28 年）に地元下増田小学校が全国緑化コンクール最優秀賞を取った記念。100m 近く津波で流されました

6. 播種･育苗　2012 年 3 月 30 日～

震災から 1 年を経過した 3 月 30 日、年に一度のタイミングで、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ 0.5kg と普通クロマツの種子 1.5kg、約 100,000 粒を播種しました。特に抵抗性種子は県の母樹園でようやく 7kg とれた大変貴重なものです。新規参入にも関わらず 0.5kg を払い下げられました。

播種は農家にとってもお祭りです。その後の懇親会では「この 1 年一度も唄わなかった」という「祝い唄」が飛び出て涙する人もありました。今年の冬は例年より寒く、通常 3 週間で発芽と睨んで設定した 4 月 26 日のお披露目式では残念ながら発芽せず、その 2 日後に初めて発芽を確認しました。発芽から 1 ヵ月後には、「おらたづ被災者がバンザイしているようだ」というほど、「めんこい」姿になりました。

7 月･11 月の県と種苗組合の検査の結果、93％の生育と確認され、「もはやプロと同等」と評価の言葉を頂きました。以降、観察･除草･消毒の繰り返しを経て、夏の成長期に特に発生しやすい病虫害を無事かわす

ことが出来ました。播種から2年の管理をし、このうち70,000本程度を植栽に漕ぎ着けたいと考えております。

第1育苗場は杉ケ袋地区、第2育苗場は北釜地区の農家「北釜耕人会」の皆様が、支援者からの寄附金を原資とし、名取市農業委員会の労働基準単価を参考に、育苗実務の対価を得ながら、ふるさとの再生への一歩を踏み出しております。

2012年3月30日、10万粒のクロマツの播種作業は、22人の手で非常に手際よく、午前中ですべての作業が終わりました

7. 啓発普及事業

「なぜ海岸林再生が必要なのか」という事を多くの人にご理解いただく必要があると考えました。「木を植える」という事のみに関心がフォーカスされる風潮に対して危機感もあります。また、このプロジェクトは、「主役は地元」と位置付けています。その上で、その日が来たら、ボランティアの協力を仰ごうと考えております。

2011年4月4日に皆川芳嗣林野庁長官(当時)、沼田正俊次長(現長官)との初面会にて、啓発普及活動は、早急に開始する必要があり、長期間の継続が不可欠との認識で一致し、その場で7月11日の海岸林再生シンポジウム開催を決定し、実施に至りました。

以来、海岸林は日本全国津々浦々に存在する身近な存在であること、多くの関係者によって守られていることなどを知って頂くのもオイスカの使命の一つと考えて、啓発普及事業を常に並行させてプロジェクトを推進しております。海岸林の機能、成立に至る苦難の歴史、現在抱えている問題は東北に限らず全国共通です。

また、オイスカは元来「国際協力 NGO」であり、外国人とともに業務を行っている組織です。従って、外国政府、在外公館や国際機関、外国プレス、NGO など発信力のある機関との独自のパイプも持っており、一定程度の海外への発信は組織としての義務であると認識しております。

左:2011年7月海岸林シンポジウム、中央・右:10月現場視察会

左・中央:2012 年 4 月・9 月現場視察会、右:10 月海岸林シンポジウム

8. 支援企業・団体との連携による啓発普及活動

私どもは、概して企画力・行動力はあるものの、広報力や資金力は弱いと自覚しています。その弱い部分に対して、企業・団体の強み、本業の特徴を活かした継続的な協力をいただいております。このプロジェクトには、出来るだけ多くの人から少しずつご支援いただくことに「こだわり」を持って臨んでおり、大局的に見て全国の海岸林への理解者、森林・林業に対する理解者が増えることに繋がるよう努力しております。

プロジェクトには植林後の育林も含めて 10 億円もの資金が必要になります。また、ゆくゆく、植林にはボランティアが殺到すると予想しておりますが、植えれば終わりではありません。活動趣旨への理解のある方、長期的支援者を増やすためにも、企業・団体などの力を借り、充実した啓発普及活動と並行した募金運動を行うことが不可欠です。今後も「なぜ海岸林が存在するのか」を多くの方にご理解頂くよう務めてまいりたいと思います。

本業を活かした啓発普及活動の一例

・三菱 UFJ ニコス	会員情報誌「Partner」への毎号掲載
・ANA グループ	「翼の王国」掲載、マイレージキャンペーン、 社員ボランティア組織「ANA すか」による各種活動
・西友	全店舗各レジでの啓発
・高島屋	カタログギフト「ローズセレクション」社会貢献ギフト
・ニコン	写真展開催協力
・埼玉・仙台トヨペット	全店舗での啓発
・カメイ	全薬局店舗での啓発
・化学総連・JR 連合・住友化学労働組合等	組合報掲載・カンパ運動

左:「仙台空港空の日」に募金を呼びかける ANA 社員　中央:西友のレジ募金には「海岸林はインフラ」と記載
右:「志葉多寿し」(広島市)の行燈 「失われた東日本の海岸林の再生プロジェクトが立ち上がりました。10 ヵ年計画という大変な事業にて小さなクロマツの苗がすくすく育っています。希望と夢をつなぐ小さな、小さな命です」

9. 提案活動(アドボカシー)　2011 年 3 月 14 日～

当初より、先々の地元市民の参画による森林保全を見据え、市民参加や民間活力導入を林野庁に提案しました。また、育苗等に関し、被災地農業従事者の主体性と技術を活かし、雇用を通じた生計支援を行う方式や、山林種苗生産事業者登録講習会の開催等を行政当局、林業事業体に提案し、実現に至っております。2012 年 7 月には宮城県知事、名取市長に名取市の海岸林再生に関する提案(第一次)を行いました。

この他、行政・林業事業体に限らず、連携しているパートナー企業・団体・組織に対して各種提案を行い、民間活力導入推進を強力に進めております。

また、海外に対しても、オイスカ独自のネットワークを活用し、2012 年 6 月の Rio+20(世界最大規模の国際環境会議)、2011 年・2012 年アジア開発銀行年次総会、2012 年 IMF・世界銀行年次総会などでも各国要人に向けて、官民の協働の取り組みによる復興支援について発信を行いました。

左:村井嘉浩宮城県知事との面会　中央:佐々木一十郎名取市長との面会　右:Rio+20 での発信

クロマツ育苗の変遷 (2012 年 3 月 30 日～12 月 26 日)

播種から 1 か月余りは「寒冷紗」の中で育苗します

今季は寒さの影響で 29 日目(4 月 28 日)に発芽しました。通常は平均 3 週間で発芽を迎えます

写真右は発芽から 1 週間後(撮影:5 月 7 日)

播種から2ヵ月のクロマツ苗(撮影:6月3日)

寒冷紗の除去作業(撮影:6月14日)

左:発芽から80日(撮影:6月20日)、右:朝食・農作業前にクロマツの消毒を短時間で行う(撮影:7月)

左:発芽から5ヵ月の苗(撮影:8月20日)右:除草・観察は秋まで欠かせません(撮影:11月)

9 月半ば以降は散水を行わず、組織を固くして冬越しさせます　苗高は平均 15cm(撮影:12 月 26 日)

1 年半の歩み

【2011 年】

3.11　東日本大震災。海岸林が壊滅的な被害をうける。

3.14　林野庁と接触開始

3.15　海外・国内からの募金受付、支援物資提供などの緊急支援活動を開始

3.17　皆川芳嗣林野庁長官(当時)に「海岸林再生への協力」を文書で表明

4.4　オイスカ理事長、林野庁長官に面会

4.13　千葉在住の名取市出身者が協力要請のためオイスカ本部に来訪

4.21　宮城県被災海岸林のヘリコプターによる航空調査実施

5.21　第 1 回林野庁「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」以後全 5 回傍聴

5.24-26　第 1 回陸上実踏調査、地元被災者・林業関係者・行政との初協議

6.1　太田猛彦　東京大学名誉教授(林野庁「東日本大震災に係る海岸防災林再生に関する検討会座長)、名取市仮設住宅集会所で「海岸林再生について」講演

6.9　オイスカ会長、太田猛彦　東京大学名誉教授とともに現場実踏

7.11　海岸林再生シンポジウム主催(於:東京・津田ホール　353 名参加)
被災地住民 40 名も大型バスで上京して傍聴

7.26　育苗場候補地調査開始

7.29　被災地住民、宮城県林業技術総合センターにて「マツノザイザイセンチュウ抵抗性クロマツ母樹」視察

8.11　宮城県、林業事業体との協議。種苗生産事業者登録講習会開催等に関して基本合意

9.5　名取市東部震災復興の会、名取市との協議

9.14　東北森林管理局訪問。秋田県能代市「風の松原」視察

9.22　『海岸林再生プロジェクト 10 ヵ年計画』をプレスリリース

9.29　被災地住民、育苗農家(蔵王町)を視察

10.15　森林総合研究所林木育種センター東北育種場を視察

10.30　ボーイング 787 型機就航記念-「海岸林視察ツアー」を開催。170 名参加

11.21　新潟大学農学部、NGO アース・ブレークスルーとの飛砂・飛塩予備調査

11.28　宮城県山林種苗生産事業者登録講習会(主催:宮城県)を 11 名で受講

12.16　宮城県農林種苗農業協同組合の加入承認を受ける

【2012 年】

1.26　育苗用地契約完了

2.4　中南米諸国主要プレス 15 名がプロジェクト取材

2.5　林野庁等主催国際セミナー「自然災害における森林の役割と森林・林業の復興」にてプロジェクトを説明

2.28　育苗場整備開始

2.29　「名取市海岸林再生の会」設立、在京海外プレス 30 名がプロジェクト取材

3.3-4　育苗場防風ネット設置工事

3.9　宮城県から払い下げのクロマツ種子を、種苗組合講習会にて受け取る。

3.11-12　経済同友会代表幹事・幹部 30 名、タイ政府職員視察、アフリカ・中近東主要プレス 10 名現場取材

3.22　「名取市海岸林再生の会」播種講習会

3.28　「播種」に関するプレスリリース

3.30　初の播種、播種祝いの会

（マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツと普通クロマツ合計 2kg、約 100,000 粒）

4.26　育苗場お披露目式に 151 名参加

4.28　播種より 29 日で発芽を確認

5.3-5　アジア開発銀行年次総会（マニラ）の公式サイドイベントでプレゼン・パネル展示

5.31　名取市長表敬

6.4-5　飛砂飛塩調査（名取市広浦・岩沼市南浜） NGO アース・ブレークスルーと共同

6.20　RIO+20 公式サイドイベント「JAPAN DAY」等でプレゼン　＊NHK で全国・海外に放映

6.25　読売新聞全国版（19 面・カラー）で大きく掲載される。

6.28　宮城県森林整備課森林育成班、第 1・2 育苗場にて第 1 回生育状況調査

7.7　世界防災閣僚会議専門家ワークショップ（IUCN・UNEP 等主催）20 名、第 1 育苗場等視察。

7.9　宮城県知事、名取市長に「名取市海岸林再生に関する提案書」を提出。

7.18　再生の会 5 名、宮城県白石市の生産農家 2 軒訪問。

7.25　育苗講習会に再生の会 3 名参加（種苗組合主催、於：宮城県林業技術総合センター）

8.2　マツノザイセンチュウ接種実技講習会（宮城県主催、於：宮城県林業技術総合センター）

8.28-29　「コンテナ苗技術検討会」（主催：森林総合研究所、於：日立市）

9.15　「名取市海岸林踏破ツアー」を開催。88 名参加

9.20　平成 25 年度苗畑事業計画書提出（種苗組合）

10.1　「Green Age」10 月号（日本緑化センター刊）で東京都市大学涌井史郎教授が活動を紹介。

10.4　毎日新聞朝刊全国版 1 面、雑誌「ソトコト」11 月号で紹介

10.11　オイスカ四国支部「四国の集い」で活動報告会 （500 名）

10.12　国際通貨基金・世界銀行年次総会（東京都千代田区）公式サイドイベントでプレゼン

10.24　「防災と森林復興に関する国際フォーラム」を開催。120 名聴講。（東京都渋谷区）

10.2　河北新報社夕刊 1 面トップ記事「縁の下の仕事人」で紹介

10.27　名取市私有林および仙台市市有林にて広葉樹種子確保開始。コナラ・クリ計 43kg 約 20.000 粒

10.30-31　名取市海岸林再生の会 25 名、秋田県能代市「風の松原」、由利本荘海岸林など視察研修。

10.30　「みどりのきずな」再生プロジェクト説明会でプレゼン　in 林野庁

11.9　　宮城県森林整備課森林育成班、第 1･2 育苗場にて第 2 回生育状況調査。
11.22　　仙台地区第一治山工事現地説明会、東北森林管理局コンテナ苗試験植栽を視察
12.10-11　　技術交流会(主催:種苗組合)に再生の会より 3 名参加

東日本大震災復興
海岸林再生プロジェクト
クロマツお助け隊

2011 年度収支報告

オイスカは当プロジェクト 10 ヵ年計画において、10 億円の予算を計上しております。
2011 年度はそのうち約 5,286 万円を以下の活動に役立たせていただきました。

【収入】 2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

項目	内容	金　額
募金･寄附金等	一般寄附金	50,661,617
民間助成金	日本財団「5～6 月初期調査経費」、国土緑化推進機構「7 月海岸林シンポジウム」	2,198,820
合　計		52,860,437

（単位:円）

＊募金の口座開設は 6 月 8 日。実質的募金開始は、2011 年 9 月 22 日。

【支出】 2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

項目	内容	金額
育苗事業	名取市海岸林再生の会への育苗事業委託費、資機材購入、技術習得･研修実施等	5,612,323
復興支援調査事業	行政･林業事業体･パートナー組織との業務調整･協議、現地踏査、アドボカシー活動、飛塩予備調査等	5,103,711
啓発普及事業	現地視察会･シンポジウム･活動報告会開催経費、支援者コミュニケーション等	4,933,061
支出総額		15,649,095
収支差額	繰越金 （2012 年度に「特定費用準備資金」へ積立）	37,211,342
合　計		52,860,437

（単位:円）

＊収支差額 37,211,342 円については、内閣府に提出した「特定費用準備資金」として積立（2012 年～2016 年度）を開始し、大面積かつ巨額の費用を必要とする、将来の植林と育林への支出に備えます。

2012 年度(12 月末現在) 収支報告

オイスカは当プロジェクト 10 ヵ年計画において、10 億円の予算を計上しております。
2012 年度 12 月末現在、そのうち約 4,969 万円を以下の活動に役立たせていただいております。

【収入】 2012 年 4 月 1 日～2012 年 12 月 31 日

項目	内容	金　額
募金・寄附金等	一般寄附金	49,693,987
民間助成金	(ボーイング「国際広報等支援」、三井物産環境基金「広葉樹育苗事業支援」、国土緑化推進機構「国際シンポジウム開催支援」を除く)	0
合　計		49,693,987

(単位:円)

【支出】 2011 年 4 月 1 日～2012 年 12 月 31 日

項目	内容	金額
育苗事業	名取市海岸林再生の会への育苗事業委託費、資機材購入、技術習得・研修実施等	13,013,695
復興支援調査事業	行政・林業事業体・パートナー組織との業務調整・協議、現地踏査、アドボカシー活動、飛塩予備調査等	1,622,084
啓発普及事業	育苗場お披露目式・現地視察会・シンポジウム・ 活動報告会開催経費、支援者コミュニケーション等	6,008,020
支出総額		20,643,799
収支差額	3 月末現在の収支差額は、前年度繰越金と合わせて、「特定費用準備資金」へ積立	29,050,188
合　計		49,693,987

(単位:円)

＊2013 年 3 月末時点の「収支差額」(12 月末現在:29,050,188 円)は、内閣府に提出した「特定費用準備資金」として計画的な積立(2012 年～2016 年度)を実施し、大面積かつ巨額の費用を必要とする、将来の植林と育林への支出に備えます。

【お問い合わせ】

公益財団法人オイスカ　啓発普及部 (海岸林再生プロジェクト担当　吉田)
〒168-0063　東京都杉並区 2-17-5
Tel: 03-3322-5161　Fax: 03-3324-7111　E-mail: t_yoshida@oisca.org